



みなみっ子

4号

学校教育目標 自立 協働 創造

令和8年4月17日(金)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

今年度の保護者アンケートについて 7月と12月に実施します。

大里南小学校 学校評価アンケート：家庭と学校で育む子どもの成長
家庭と学校で連携し、子どもの豊かな成長を支えるためのチェックリスト

子どもの自立と豊かな生活習慣

- 毎日の学習と読書の習慣化**
宿題や読書を含む家庭学習、おびき進んで読書に取り組む姿勢を評価します。
- 社会性を育む挨拶と言葉遣い**
気持ちの良い挨拶や丁寧な言葉遣い、進んでお手伝いをする意欲を確認します。
- 基本的な生活リズムの確立**
「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底と、徒歩での登下校による体力作りを推奨しています。

学校・家庭・地域の信頼と連携

- 安心・安全で楽しい学校生活**
子どもが学校を楽しみ、授業を理解できているか、また学校が安心できる場所かを問います。
- 学校との円滑なコミュニケーション**
担任への相談体制や、学校ホームページを通じた積極的な情報収集を促します。
- 行事やPTA活動への積極的な参画**
学校行事、PTA、地域の子ども会行事へ親子で参加し、コミュニティを深めることを重視します。

大里南小学校 保護者向けアンケート内容

学校評価 保護者アンケート 質問内容

大里南小学校 Googleフォーム実施[7月・12月]

No.	質問内容
1	お子さんは、家庭学習を毎日取り組んでいる。(宿題や学習塾も含む)
2	お子さんは、進んで読書をしている。
3	お子さんは、進んで挨拶ができています。
4	お子さんは、丁寧な言葉遣いができています。
5	お子さんは、好き嫌いがなく食事している。
6	お子さんは、進んでお手伝いや働くことができています。
7	お子さんは、学校へ行くのが楽しいと言っている。
8	お子さんは、授業がわかりやすいと言っている。
9	困ったことや気になることがあったら、担任や学校に相談できている。
10	学校は、お子さんを安心して預ける事ができる。
11	学校行事(体育発表会・授業参観等)に参加している。
12	学校のホームページをみている。
13	PTA活動に積極的に参加している。
14	早寝・早起き・朝ご飯を実践している。
15	徒歩登校(イオン駐車場下車)・下校に取り組んでいる。
16	地域行事やPTA行事、子ども会行事等に、子どもと一緒に参加している。

学校評価の保護者用アンケートの評価項目についてお知らせします。ご理解とご協力をお願いします。

学校評価における保護者による評価(保護者アンケート等)は、単なる「満足度調査」に留まらない、学校運営の改善に不可欠なサイクルの一部です。その意義を、大きく3つの視点から整理して解説します。

1 学校運営の「客観的な鏡」としての意義

教職員だけでは、どうしても「教育の意図」に目が行きがちですが、保護者の視点は「教育の結果(子供の姿)」に注がれます。教育活動の可視化が図れます。学校が目指す教育目標が、家庭にどれだけ浸透しているかを測定できます。教職員が「うまくいっている」と思っていることと、保護者が感じている実態とのギャップを浮き彫りにし、独りよがりな運営を防ぎます。

2 学校と家庭の「パートナーシップ」の強化

評価を通じて対話が生まれることで、学校と家庭の役割分担が明確になります。保護者の意見を真摯に受け止め、改善策を公表することで、「自分たちの声が学校を変えている」という実感(参画意識)が生まれます。

家庭教育力の向上:アンケートの設問自体が、「家庭で大切にしてほしいこと(例:早寝早起き、家庭学習の定着)」のメッセージとなり、保護者の気づきを促します。

3 学校の「説明責任(アカウンタビリティ)」の遂行

公教育機関として、どのような教育を行い、どのような成果があったのかを利害関係者に示すことは義務に近い重要な役割です。

情報の透明性:評価結果を公表することで、地域や保護者に対して開かれた学校であることを示します。

教育の質の保証:外部(保護者)の視点が入ることで、緊張感を持った継続的な改善サイクルが機能します。

校長2年目の決意

校長として果たさなければならない使命「安全・安心な居場所の保障と、質の高い学びの提供」

命を守る: 物理的な安全(防災・防犯)はもちろん、いじめや孤立のない「心の安全」を最優先に守り抜くこと。

教育課程の執行: 全ての児童に対して、学習指導要領に基づいた質の高い授業を等しく提供する責任。

教職員の育成: 先生たちが心身ともに健康で、専門性を発揮できる職場環境を整えること。

校長としてできること「対話を通じた合意形成と、地域を巻き込むネットワーク力」

傾聴と決断: 現場の先生や保護者の声に耳を傾けつつ、学校としての最適解を導き出すバランス感覚。

リソースの活用: 地域住民、企業、専門家などの外部資源を教育活動に結びつけるコーディネータ力。

俯瞰的な視点: 部分最適ではなく、学校全体の6年間を見通した中長期的なビジョンを描く力。

教育への願い・想い「一人ひとりが『自分の人生の主人公』として輝ける学校へ」

自己肯定感の醸成: 「自分はできる」「ここにいいんだ」と全ての子が思える瞬間を1つでも多く作りたい。

正解のない問いへの挑戦: 失敗を恐れず、「まずはやってみる」というマインドセットを子供たち(そして教職員)に根付かせたい。

ウェルビーイングの実現: 学校が単なる知識習得の場ではなく、大人も子供も「明日もまた来たい」と思える幸福度の高いコミュニティでありたい。